

ポレポレ 倶楽部 通信

発行日 2011年 2月 No.19

発行責任者 高田 次雄

久留米市安武町武島468-2

「出会いの場 ポレポレ」内

Te l 0942-27-2039

Fax 0942-27-2086

当事者による当事者のための委員会やっています

まずは自分たちで出来るところからスタート・・・

当事者委員会のはじまりは、自分たち利用者の意見を出す場をつくりたいということでした。

現在まで、7回開催しましたが、現在は、活動中での困っていることや苦情を言い合うような場になっています。8人の委員の中で、なかなか話すことができない人もいますが、確実に自分たちの言いたいことを言える場になってきています。

今後は、苦情を持ち寄るだけでなく、自分たちの果たす役割を見つけ出せるような会になることを目指していきます。スタッフが決めるのではなく、自分たちでやりたいこと、思っていることが実現できるようになる、そのために、自分たちのできることは自分たちでやっていきたいと思えます。自分たちの役割を果たし、できないことを周囲の人に協力依頼できるようになりたいと思えます。

(就労継続A型事業所 利用者 坂本 喜教)

.....目

次.....

2p・・・子どもたちが輝いた！第9回ポレポレ祭り！

3p・・・年々深まりと広がりのある新年会

4p・・・ひろがる暮らしの場

5p・・・成人のお祝い

6p・・・資金管理等検討委員会から「NPO法人ウォッチ」へ

7p・・・DVシンポジウムに参加して

8p・・・変革は、今から、ここから、僕から（生き方を探るシンポジウムに関わって）



子どもたちが輝いた！第9回ポレポレ祭り！

当日(10月24日)は季節外れの嵐…気温も低く横なぐりの雨と風…何度も「もうやめようか」と心が折れそうになりました…嵐の中でも来てくれるお客さん、一生懸命働く子どもたち、学生ボランティア、地域のみなさん、実行委員のみなさんたちの姿を見ると、この祭りは「みんな」でつくり上げているのだと改めて気付かされました。みなさんから元気と力をいただきながら、最後まで何事もなく無事に終わることができました。

今回、テーマ「輝け！子どもたち」のもと、地域とのつながりが希薄になっている子どもたちを祭りの中心におき、地域の方や障がい者と子どもたちがこれまで以上につながる場にしたいという思いで取り組みました。地域の小学校と「子どもパン屋さん(大善寺小学校6年生)」、「かえっこバザール(安武小学校4年生)」を共同企画し、総合学習の時間をつかって交流を重ねて、つくりあげました。当日、子どもたちは自分たちの役割を果たすべく一生懸命働き、会場のあちらこちらで子どもたちの呼びかけの声や笑い声、笑顔を生み出していました。一人ひとりがとても楽しそうに、祭りのなかで輝いていたことはとても印象的でした。

目的としていた、子どもたちに「つながることは楽しい!」「地域とつながりたい!」と思えることを少しでも伝えられたのではないかと考えています。そして、今後もこのような取り組みを、この地域で続けていく必要があると感じました。

次は記念すべき10回目を迎えます。これまでのつながりの種を大きく花咲かせる祭りになるようにつくりあげたいと考えております。

なお、祭りの収益金は、下記のように使わせていただきました。本当にありがとうございました。

- 法人事業(ポレポレ敷地内にある地域の小中学生が描いた看板の修復や増設)
- 安武小・大善寺小・筑邦西中に寄付
- 安武・大善寺コミュニティセンターに寄付
- 次回祭りのための準備金積み立て



前日はパンの仕込みで大忙し



当日はあっという間に完売!

【大善寺小学校 6年生】「子どもパン屋さん」をしてみて……

- ポレポレでめったに体験することのできないパン作りをしてとてもためになりました。ポレポレミニミニ子ども祭りにも参加させていただきました。来年もポレポレ祭りに参加したいと思っていますのでその際はよろしくおねがいします。
- ポレポレの人とパンを作ったりポレポレの人と楽しく遊んだり、とても良い思い出ができました。パンをみんなで作れてうれしかったし、美味しかったです。楽しく交流ができてよかったです。

【安武小学校 4年生】「かえっこバザール」をしてみて……

ほくはポレポレ祭りの実行委員をしました。祭りはだれでも参加できるのでうれしかったです。わけは、日本中で使えるポイントカードで、いろんな物とこうかんできるからです。【スタッフ役は】むずかしくはなかったけど大変でした。でも楽しかったです。またしてみたいです。またあると聞いたら、早く行ってポイントをもらって、ほしい物とこうかんしていきたいです。ポレポレの方たちとも仲良くできたので、これからもいろいろな人と話して行きたいです。

(拓くスタッフ 浦川 直人)

年々深まりと広がりのある新年会！

ポレポレ倶楽部の新年会は地域の人や拓くの職員や保護者が、カラオケをしたり、踊ったり楽しさを共有するひとときです。毎年料理のメニューも変わり、今年はイタリア料理でした。おいしいものをみんなでワイワイガヤガヤ食べることで、つながりも深まり、広がりを見せています。

今年は、イタリア料理がテーブルに並び鍋もイタリア風で珍しかったです。おなか一杯ご馳走になりビールもたくさん頂きました。ポレポレの方々、地域の方々と楽しいひとときを過ごさせて頂き楽しかったです。
(安武校区 執行 年子)

私は、ポレポレ倶楽部に入会して、早や2年が過ぎました。月1回の例会に出席させて頂き、保護者の方々やスタッフのみなさんと少しずつ顔見知りになって来ました。新年会ではみなさんと一緒に、おしゃべりや食事をしたり、歌ったり踊ったりして、楽しいひとときを過ごさせて頂き親睦を深めました。(保護者の方々、スタッフの皆さん、準備大変でしたね。お疲れ様でした。)

「障がいがある人もない人も、一緒に仲良く地域で暮らす」この当たり前ことを実現するために、これから私も利用者や保護者の方々、スタッフの皆さんと手を取り合って、一緒に考え少しでもお役に立てたらと思います。
(安武校区 古賀 宣子)

毎年恒例の事ですが、新年会に出席させて頂きました。おいしい料理とおいしいお酒、また楽しい時間を過ごさせて頂き、来年も楽しみにしております。
(安武校区 武藤 仕)

お料理もおいしいし歌も踊りもみなさん上手で楽しかったです。フラダンス、来年はみんなで踊れるよう今年は練習しておきたいと思います。
(安武校区 古賀 英子)



♪ ひろがる暮らしの場 ♪

法人「拓く」の2番目のケアホーム「ニუნバ」1階の増築が11月に終わりました。既存の7名の入居者と2名の体験入所者計9名（2階）に加えて、1階に5名（他ケアホームより2名、自宅より3名）の方たちの生活がスタートしました。新しく入居されたメンバーは、重度重複障がいにより全面介助が必要な方たちです。家族が担ってきた暮らしから、さまざまな支えによってケアホームでの生活を踏み出されました。どんなに重い障がいがあっても「親亡き後」ではなく、親が元気なうちから自宅外での豊かな暮らしに向けて出発です。

重い障がいがあっても安心して暮らせるように様々な工夫をしました。

入居者の中には、定期的な経管栄養や座薬の注入など医療的なケアを必要とする方もいます。医療的ケアが必要であっても安心して暮らせるよう、医療連携の制度をとりました。制度を使うことで（他事業所の）看護師がケアホームに訪問し、医療的ケアを行ってくれます。

重い障がいの方の暮らしには本人はもとより介護者の介助負担軽減も重要です。そのために、リフトを随所に設置し、なるべく抱えなくてもいいような工夫をしました。これで入居者、世話人、ヘルパーも安心して継続的に暮らしていけると思います。

急激な環境の変化に徐々にになれるため週3泊の宿泊から始めたり、環境が変わって眠れない入居者の場合は、慣れるまで親に泊ってもらったりするなど、ご家族とスタッフが丸となって、安定した暮らしに向けて取り組んでいます。手探りですが少しずつ進んでいるのではないのでしょうか。

自分の意思をことばで話すことができない人が、どんな暮らし方を望んでおられるのか、共に考えていきたいと思っています。

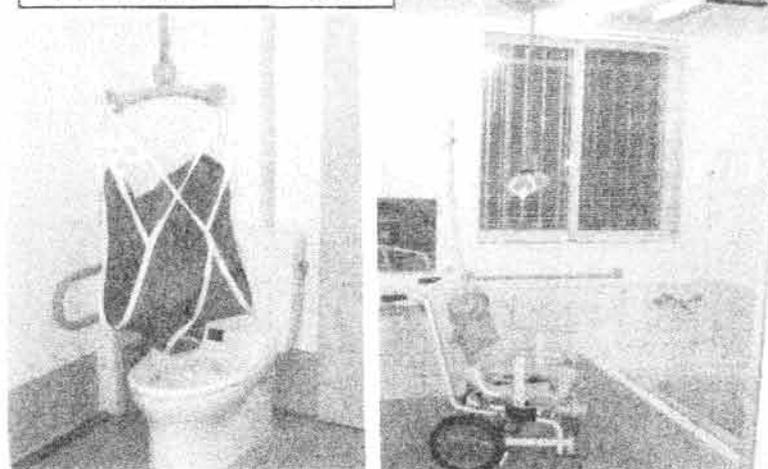
ニუნバ外観



他事業所の看護師さんによる医療的ケア



リフト完備のトイレ・浴槽



移動式リフトは、個室からトイレ、脱衣場から風呂場へ移動でき、速度は、ゆっくりで、誰もが安心して乗る事ができます。

（ニუნバ世話人 高田吉優、今岡勝美）

成人のお祝い

ホテルニュープラザで「成人のお祝い会」を開催しました。今年の成人は、池田遼さんと村井友紀さんの二人で大人の仲間入りをしました。これからも応援をしていきたいと思えます。

広い会場でたくさんの方にお祝いして頂きながら、長かったような短かったような20年のこれまでが思い出されました。不思議なことに節目に必ず転換期があり、2年前に「ケアホームに入らないか」と誘われたのもそのひとつです。親子共々戸惑いもありましたが、今では自然に下宿生活を送っています。勇介くんと遼の共同生活は、まるで家族のようです。2人とも就労しているので、つらいことも悲しいこともいっぱいあるようです。それでも下宿に帰ればほっと一息、世話人さんがいて、おいしい食事と楽しい時間があります。この何気ない普通の生活にたくさんの支援があり、2人を支えて頂いていることを改めて感謝します。



(母 池田佐和子)



成人されたお二人に将来の夢を語ってもらいました！

村井友紀さん

☆ 将来の夢

- やさしい保育園の先生になることが一番の夢です。
- 子どもたちがよってくる先生になりたいです。

☆ 20歳になって、してみたいこと

- いろんな保育園に行ってみたいです。
- 研修をしてみたいです。



池田 遼さん

☆ 将来の夢

- 現在、考え中。

☆ 20歳になって、してみたいこと

- 電車で旅をする事。



「資金管理等検討委員会」から 「NPO 法人ウォッチ」設立へ

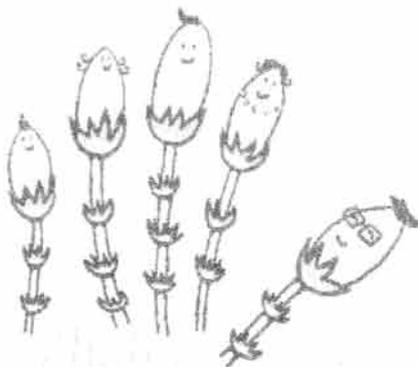
障がい者の親として、一番心配なのは親なき後の子どもの生活です。特に一人っ子の親御さんは不安でしょう。また、兄弟姉妹がいても面倒みてくれるだろうか心配されている親御さんも多いかと思えます。

子どもが20歳を過ぎると、親であっても、子どもに代わって郵便局や銀行での口座を開いたり、福祉サービスの利用契約を結んだりすることはできないのです。判断能力の不十分な方は銀行口座をつくることも、各契約をすることもできませんので成年後見人が必要となります。しかし、「うちの子は口座を持っている」、「福祉サービスも契約している」と、何も問題ないと思われているかも知れません。実際は、銀行の入金や出金が月に数万円の年金の範囲なので、銀行も黙認しているだけです。福祉サービス事業所でも親と本人の名前があるから大目にみているのです。これらを法律通り行い、全国で数百万人おられる判断能力の不十分な知的障がい者、精神障がい者、認知症高齢者等に成年後見人を付けたら、家庭裁判所等是对応が大変です。今後は、遺産相続の数百万のお金を子どもの口座に預金したり、年金をコツコツ貯めた預金の中から、数百万のお金を引き出したりする場合は、金融機関は成年後見人を選任してくださいと言ってくるでしょう。福祉サービス事業所との契約についても、親なき後、本人とその兄弟姉妹など両名の契約であれば、成年後見人をお願いしませうと言おうでしょう。面倒ですが、判断能力が不十分な人々を守るためにこの成年後見人制度があるのです。いずれにせよ、財産管理ができない子どもの親なき後を思うと、成年後見人を選任しておく必要があります。

ポレポレ保護者会では、各福祉法人の金銭管理等の実態も勉強し、実際どのようにすればよいか、昨年の4月より保護者会の有志で検討してきました。

そして、NPO 法人を設立し、成年後見人制度を事業化することにしました。その申請を昨年12月に行い、今年3月に認可され、4月に法務局に登録する予定です。法人の名称は「NPO 法人ウォッチ」としました。親なき後の子どもたちをみんなで“見守る”“見つめる”意味で、「ウォッチ」としました。

障がいがある人たちの権利を擁護するような法人を目指していきたいと思えます。



(NPO 法人ウォッチ 理事長(予定) 野田 政氏)

DVシンポジウムに参加して

「第13回 全国シェルターシンポジウム 2010 in くるめ」が2010年11月20日と21日の2日間にわたって開催されました。1日目は、「DV被害者の実態を知る」と題して米国のLandy Bancroft氏の基調講演、その後「加害者責任のあり方を考える～加害者対策の現状と課題と今後の方向性」についてのシンポジウムでした。2日目は、各会場に分かれて午前と午後それぞれDVに関連したテーマでの分科会でした。

私は、初日には参加できず翌日の分科会のみ参加しました。午前中は、「DV被害者の自立と回復に向けて」というテーマにひかれて参加した分科会でした。

内容は、内閣府でおこなった「自立支援モデル事業」が今後、地域でどのように活用されていくのか、宇都宮市で実施されているプログラム説明と受託している民間シェルターの現状や課題などの話でした。

午後からは、「DV状況にある障がい者への支援のあり方を考える」というテーマの分科会でした。分科会では当法人の常務理事 馬場篤子が登壇し、福祉関係者の立場から障がい者の支援者の運動の観点や自身のジェンダーやDV観などを発表しました。次の発表者が、障がい児を抱えたDV被害者の実態を赤裸々に話した後、質疑応答へと続いていきました。今でもそのときの様子が鮮明に思い出されるほど衝撃を受けた分科会でした。

このシンポジウムに参加し、DVの実態を少し垣間見た気がしました。DV被害者でも障がいがあることでより状況が悪化する恐れがあること、DV被害の母親を持つ子は、母親の3倍の恐怖心を持つことなどを知ることができました。いかに自分が何も知らないで生きてきたかを痛感しました。

まずは、知ることからはじめていきたいと思います。来年は、仙台でシンポジウムがあると聞き、時間と費用が許せば行って勉強したいと思います。

最後に、法人の研修としてこの機会をいただいたこと、シンポジストには重く深い体験を話していただいたことに感謝いたします。

(拓くスタッフ 上野 實知子)

常務理事 馬場篤子、実行委員(物販係)として参加



DVシンポジウム実行委員とボランティアのみなさん

生き方を探るシンポジウムに関わって…

変革は、今から、ここから、僕から

2月12日(土)、事務局の予想をはるかに上回る1,300人のお客様で久留米市民会館大ホールが埋め尽くされ、『生き方を探るシンポジウム』は盛会のうちに終えることができました。

「次の時代をともに創る！つながっていこう！」そんな思いを持ってスタートした映画「降りてゆく生き方」上映会と生き方を探るシンポジウム。

今回、事務局の1人として参加させていただき感謝しています。その中で自分の力のなさ、知らないことの多さ、自信のなさ等身にしみて感じて実際苦しい時間でもありました。

特にチケットが売れなくて…とにかく売ることに奮闘する毎日…あんまり売れないから、今までの売り方じゃ駄目だと、途中から「売る」から自分の気持ちを「伝える」にシフトチェンジしました。一人ひとりにゆっくりとどんな気持ちでいるのかを伝えたり、その人と環境のことや生き方のことを話したりする時間を増やしていきました。それでも売れない時は全く売れないけれど、その人の思いや今感じていることを聞くことができ面白かったです。でも、現実(事務局会)に戻ると「やばい、売れてない〜〜」と苦しむ日々…

さて、苦しかった話は終わりにして、4ヶ月間取り組んできた中で、「次の時代をともに創る」「つながる」という目的から「喜ばれる」というところに気持ちが変わってきたように思います。「次の時代をともに創る」「つながる」というものがなかなか見えなくて【つながっていると思っていてもチケットが売れずつながってなかったのかと思うことも…】、「喜ばれる」なら分かりやすく気持ち良いと感じて、こっちが自分の目指す「生き方」なのかな、と今は思っています。

シンポジウムが終わって、今はチケットを買っていただいた方に少しずつ話を聞きに行っています。そこで、その人の今までの「生き方」を聞くことができたり、生活の中でこうしていけたら良いねという話ができたり、そして映画&シンポジウムを見て喜びの声をもらえたりと楽しませてもらっています。少しずつ、時間をかけながら一人ひとりに聞いていきたいと思います。良かったらみなさんも聞いてみてください。自分の知らなかったその人の一面を知ることができたり、思いを共有できたりすると思います。

最後になりますが、環境のこと、街づくりのことなどまだまだ他人事と考えてしまっている自分がいることに気づきました。シンポジウムの準備をしている時期に、地元山口の上関原発の建設予定地の埋め立て工事の一時中止と、埋め立て許可の再検討を求め、19、20歳の若者がハンガーストライキをしていました。原子力発電所が作られ、稼動する事によって生まれる放射性廃棄物や、海や大気中に蓄積されていく放射線を僕等の世代や、僕等の子ども達に残して欲しくないという想いからこの行動を決起したそうです。私もそれを何とかしなければと心で思いつつ、結局何もできなかった自分がいました。

自分が変わらなければ、変えられない…これからの世代に「喜ばれる」生き方を。

最後にもう一度、ありがとうございました。岩根義明は喜ばれる選択をしようと思います。

(次の時代を共に創る実行委員/田主丸養護学校 岩根 義明)

